

授業改善プラン

地域名	南房総教育事務所	学校名	市原市立五所小学校
-----	----------	-----	-----------

1. 課題（これまでの全国学力・学習状況調査結果等から）

- 平均正答率は全国・千葉県より下回った。
- 領域別では、特に「データの活用」の理解に課題がある。
- グラフや表から必要な情報を読み取り、問題を解くことに課題がある。
- （ ）を用いた式や、加法と乗法の混合した式を場面と関連付けて読み取り問題を解くことに課題がある。

2. 取組のポイント（仮説、改善方法等）

- 話し合い活動を重視し、自分の気づきや考えをノートに書いたり、タブレットを活用したりして、それをもとに発表を行うなど「主体的・対話的で深い学びにつながる授業」を推進する。
- 目的や意図に応じて協働や話し合いの場を設け、理解を深める指導を充実させる。
- 計算の仕組みや方法を学習した後、練習問題に取り組んで学習内容を定着させる指導を充実させる。
- 児童が自分の考えを形成したり、思いや考えを基に創造したりする時間を大切にする。
- 教具、図、数直線などを効果的に用い（デジタル教科書の活用も含む）、計算の仕組みやグラフの活用、図形、割合等を正しく捉える活動を充実させる。

3. 具体的な実践

- 目的や意図を明確にして話す・聞くことを大切にする。
- 月例テスト（五所っ子チャレンジ）を活用して学習内容をふり返り、基礎基本の定着を図る。
- 自発的に計算練習に取り組めるように指導していく。
- 毎日の授業の復習をする。（宿題や家庭学習、タブレットの活用）
- 千葉県学力向上通信を活用し、授業展開を行う。

4. 成果

- 普段の各教科の授業でも「広げ深める場面」と「まとめあげる場面」に着目し、教材や発問の工夫をしたり、振り返りやまとめを重視したりすることで、「主体的・対話的で深い学び」につながるような授業改善を行い「できる、わかった」という児童が増えてきている。
- 月例テストにより、学習の習慣化がされてきている。
- 千葉県学力向上通信を職員に回覧することにより、そこから授業の改善ポイントを学ぶことができ、より良い授業展開をすることができている。

◆担当指導主事から（南房総教育事務所 指導主事 上代 博行）

- 実践モデルプログラムの2つの過程に重点を置き、学校全体で共通した課題意識を持って取り組んでいる。授業での工夫された発問、声かけにより、児童が「やってみたい」と自ら学ぼうとする主体的な学びが引き出されており、協議会では、よりよい授業になるようにと積極的に意見を出し合い、職員全体で授業改善に向けて取り組んでいる。